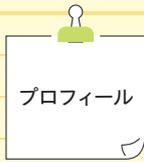


各地の職場から

今回は「長崎県の佐世保基地」で勤務し活躍されている方々を紹介します。



もろとみ ひであき  
諸富 英朗

職場：米海軍佐世保基地艦船修理廠  
職種：グループマスター  
趣味：犬と散歩



コメント

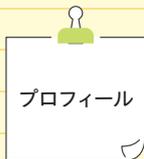
私は、SRF佐世保のプロダクションショップと呼ばれる部署で艦船修理に携わっています。佐世保を母港とする艦船や一時的に寄港する艦船に対する修理・改造工事を中心に、定められた工期内の任務完了を目標として日々奮闘しています。

このポジションに移動してきた当初は私自身の能力に不安を感じていましたが、優しい上司、優秀な部下、熟練の職人の皆さんのおかげで、今日までの6年間、業務を進めることができています。特に緊急工事や出張工事に対応する皆さんのスピード感と団結力を眼前にすると、ここで働ける事を嬉しく思います。そのような生産性の高さは、個人に与えられる権限が大きく、自由度があるSRF独特の職場風土の上に、責任感の強い人

材が集まっているからだと考えています。責任やプレッシャーは小さくはありませんが、完工時の達成感や充実感を対価として得ることで、意欲や士気の維持向上に繋がっています。

艦船からの要求や取りまく環境が変化するなか、即応できる機動力を維持し、先輩方が築いたものを次世代に繋げながら、もうすぐ迎えるショップ創立30年を仲間たちと一緒に祝えるよう、これからも努力を続けていこうと思います。

最後に、アンドリューカーネギーの墓標に「おのれより優れた部下を持ち、共に働ける技を知れる者」という言葉が刻まれているそうです。その境地にはいまだ達していませんが、それでも私は今、まわりの皆さんに支えられながら働くことをとてもありがたく感じています。



むらかみ せいじ  
村上 誠治

職場：米海軍佐世保基地艦船修理廠  
職種：生産管理専門職  
趣味：スポーツ（球技・有酸素運動）、  
魚釣り



コメント

寄稿の機会を得て大変嬉しく思っています。

私は、1987年に船用機械メーカーから転職して37年余りの在職となります。転職当初、技師としての経験はありましたが、米海軍艦船を修理するためには乗組員との英語での会話や英語の技術文書の読み書きに苦労したことを覚えています。英語は嫌いではありませんでしたので、一念発起して勉強したものです。

また、当時は米海軍佐世保基地大規模縮小から順次復帰して数年しか経っていませんでしたので、職員も今の一割ぐらいでした。佐世保を母港とする船の数も少なかったのですが、揚陸艦・サルページ艦・潜水艦などもいて、軍艦の特殊な仕組みに興味を持ち、やりがいを感じながら働きました。

経歴を重ねるにつれ中間管理職から管理職とな

り、米軍属監督者や上級士官などに関わる場面も増えてきました。アメリカ人と日本人がチームワークを発揮して共通の目的を達成するためには、より安定した信頼関係を築き上げる必要に迫られました。文化や人種、習慣の違いを越えて、お互いの良いところを学びあい、苦手なところを助け合うことが健全な組織として難しい課題ながら、とても大切なことだと解るようになりました。世界情勢が混沌として不透明な時代だからこそ、お互いを尊重する意識は大事にしたいと思っています。

コンプライアンス順守、価値観の多様化、世代の隔たりなど、昔になかった複雑な環境の最中にある昨今です。ただ、米海軍艦船修理廠というダイナミックで恵まれた職場環境から受けた恩恵を、次の世代に繋げることが、今の私にとっての命題です。